

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特にツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティとの関係や、市場特性の理解に重点を置く。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

1. ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を下げず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。
2. 「学生ガイドによるまち歩き」を実施する。学生がツアープランニングし地域活性化に貢献する。

授業計画

1. 演習の概要説明
2. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
3. ホスピタリティ産業の価値とは何か
4. ホスピタリティ産業の市場環境
5. ホスピタリティ産業の事例研究
6. 労働生産性について
7. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
8. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
9. フィールドワーク1
10. フィールドワーク成果発表
11. フィールドワーク2
12. フィールドワーク成果発表
13. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
14. 「学生ガイドによるまち歩き」打ち合わせ
15. まとめ

授業の方法

授業はゼミ生主体に進行する。レポートやパワーポイントを使用し

ディスカッション形式でおこなう。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法

課題50%発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特に指定なし。

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習Iの受講には、必ず「観光概論」、「観光事業論」を履修していることが条件である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

音声学の基礎を理解する／英語の音素体系について理解する／音声の面白さを発見する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

授業の概要

声を出すしくみや発音をコントロールする調音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

授業計画

1. イントロダクション
2. 英語学習についてのブレインストーミング
3. 「かな」より小さい音の単位
4. ことば遊び
5. 音象徴(調音法と音の印象)
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 調音器官
9. 発音チャート
10. 五十音図1
11. 五十音図2
12. 英語の子音の音声的特徴
13. 綴りと発音
14. 発表とディスカッション2-1
日本語話者の英語観察と分析1
15. 発表とディスカッション2-2
日本語話者の英語観察と分析2

授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

準備学修

Webを参照すること

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

川原繁人『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)
TEX加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』(朝日新聞出版)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱに引き続き、言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何かについて、ことばの習得と教授法を考察する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要

言語用法が分かったとして、実際に言語を使うことができるか?日本語をそのまま英語にしているのでは?伝えたい内容を「正確に」「適切に」会話の場面で「流暢に」使うとはどういうことか、それぞれがコミュニケーションのための言語教育における問題点を発見し、調査した結果をまとめて発表し、討議を行う。

授業計画

1. イントロダクション
2. 第2言語習得 (1) 母語の影響 (1) 言語転移
3. 第2言語習得 (2) 母語の影響 (2) 文化転移
4. 第2言語習得 (3) 年齢要因(臨界期仮説)(1)
5. 第2言語習得 (4) 年齢要因(臨界期仮説)(2)
6. 第2言語習得 (5) 動機付け(1)
7. 第2言語習得 (5) 動機付け(2)
8. 発表とディスカッション
9. 効果的な外国語学習法・外国語教授法(1) インプット仮説、アウトプット仮説
10. 効果的な外国語学習法・外国語教授法(2) 情意フィルター仮説
11. 小学校英語教育
12. 中学校英語教育
13. 高等学校英語教育
14. コミュニケーション能力育成
15. まとめ[コミュニケーション能力]

授業の方法

講義、口頭発表、ディスカッション、まとめレポート提出形式で行う。

準備学修

次のテーマについて、テキスト、参考図書を読み、ディベートができるように準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- (1)欠席や遅刻は、必ずメールにて福智 (fukuchi@kaisei.ac.jp) に連絡をすること
- (2)欠席をした場合、授業内容及び課題の有無を確認し提出すること。提出が遅れた場合は減点する。

テキスト

後日連絡する

参考図書

コミュニケーションのための言語教育 H.G.Widdowson
 ナチュラル・アプローチ スティーブン・D. クラッシュェン、トリーシー・D・テレル
 外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か(岩波新書)新書 白井 恭弘(著)
 外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待(岩波科学ライブラリー)単行本 白井 恭弘(著)

留意事項

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

教員連絡先

発表内容、出席状況、意欲的に参加しているかなどの学習態度等を統合して評価する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

- 1、 ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を下げず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。
- 2、「学生ガイドによるまち歩き」を実施する。学生がツアープランニングし地域活性化に貢献する。
- 3、 関空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画イベントへの参加

授業計画

1. 演習の概要説明
2. 学生ガイドによるまち歩き1
3. 学生ガイドによるまち歩き2
4. 課題の設定
5. 課題の発表
6. 課題の発表
7. 課題の発表
8. 課題の発表
9. 課題の発表
10. 課題の発表
11. 課題の発表
12. 課題の発表
13. 海外旅行企画
14. 海外旅行企画
15. まとめ

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法

課題50%、イベント参加と発表内容50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、必ず「観光概論」、「観光事業論」、「観光マーケティング論」を履修することが条件である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方(研究計画について)
4. 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
5. 個人発表と質疑応答
6. 個人発表と質疑応答
7. 個人発表と質疑応答
8. 個人発表と質疑応答
9. 個人発表と質疑応答
10. 個人発表と質疑応答
11. 個人発表と質疑応答
12. 個人発表と質疑応答
13. 個人発表と質疑応答
14. 個人発表と質疑応答
15. まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組む。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込む／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

授業の概要

英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込むためにゼミ内でディスカッションや各自の文献調査を進める。

授業計画

1. 卒業研究の進め方
語強勢の特徴1
2. 語強勢の特徴2
3. 英語のイントネーションの核の基本
4. 英語のイントネーションの核の観察1
5. 英語のイントネーションの核の観察2
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 英語のイントネーションの核の観察3
9. 英語のイントネーションの核の観察4
10. 英語のイントネーションの核の観察5
11. 英語のリズム
12. 英語のリズムの変化
13. 発表とディスカッション2-1
14. 発表とディスカッション2-2
15. まとめ

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%
課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

テキスト

服部範子著、『入門英語音声学』（研究社）
西田大著、『音読』で攻略 TOEIC L&Rテストで文80』（かんき出版）

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
福智 佳代子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続き、言葉の習得とは何か、言語学習とコミュニケーションのための言語教育とは何か、コミュニケーション能力とは何かについて考察し、学生それぞれの卒業研究完成のための支援を行い、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、及びIn(国際性)を養う。

授業の概要

授業ではそれぞれ研究を支援する講義を適宜行い、演習計画に従って、研究内容発表、討議を行い、卒業研究を完成する。

授業計画

1. ガイダンス 卒業研究進行状況報告と今後の進め方
2. 卒業研究の報告と討議 (1) まとめと考察 (1)
3. 卒業研究の報告と討議 (2) まとめと考察 (2)
4. 卒業研究の報告と討議 (3) まとめと考察 (3)
5. 卒業研究中間発表 (1)
6. 卒業研究中間発表 (2)
7. 卒業研究修正 (1)
8. 卒業研究修正 (2)
9. 卒業研究仮提出・推敲 (1)
10. 卒業研究仮提出・推敲 (2)
11. 卒業研究仮提出・推敲 (3)
12. 卒業研究最終報告と討議 (1)
13. 卒業研究最終報告と討議 (2)
14. 卒業研究口頭試問 (1)
15. 卒業研究口頭試問 (2)

授業の方法

講義、発表、討議、レポート提出

準備学修

講義内容の予習をして課題の討議の準備をする。
卒業研究内容を適宜発表する。

課題・評価方法

レポート、口頭発表、授業への参加・貢献度により、総合的に評価。

欠席について

卒業研究につながるものであり、討議の状況など総合的に判断する参加型授業なので、必ず出席すること

テキスト

後日連絡する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

一回一回の講義内容、討議事項など、その時その場でまとめること。

教員連絡先

fukuchi@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とR(思いやり)を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3. 個人研究発表
4. 個人研究発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

課題・評価方法

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞
Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

新成長戦略の分野として観光は注目されている。観光を単なる物見遊山と見るのではなく、学問として捉えていく。観光学の入門講座である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識の修得。特に、我が国の国際交流と地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は、観光領域の入門講座である。

授業計画

1. 観光の定義: 観光の定義と意味
2. 観光の歴史と国際観光: ヨーロッパにおける旅と観光
3. 国内観光: 日本の旅と風俗
4. 観光文化: 観光と地域文化
5. 観光経済: 観光の経済効果
6. 観光政策: 観光行政と政策
7. 観光心理: 観光行動
8. 観光と交通: 鉄道事業と観光
9. 国際観光: 航空運送事業と観光
10. 旅と宿: 宿泊業と観光
11. 交流型観光: 観光と旅行業役割
12. 滞在型観光: 滞在型観光とテーマパーク
13. 地域振興: 地域と観光
14. 情報化社会: ICTにおける観光への影響
15. まとめ: 観光概論のまとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法

課題30% 統括試験70%

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

白土健他『新観光を学ぶ』八千代出版 2017

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。
*注(重要)3年次、4年次に観光を専攻する学生(観光領域ゼミ選択希望者)は必ず履修すること。
ゼミ選考の要件になる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
青木 幹生	選択	2	旅行会社 勤務			

授業の到達目標

観光先進国フランスの現状を学び、フランスと比較しながら日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンタテインメントなどの各インフラの問題点を探る。
(このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。)
世界観光機関(UNWTO)や国土交通省、観光庁のデータをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を参照し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

視座を観光先進国フランスおよびヨーロッパの観光先進国に定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。
世界観光機関(UNWTO)、OECD、日本の観光庁などのデータを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound、Inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 国際観光交流論概要、フランスはどのような国か? 観光立国とは何か、シラバス概要、教科書、評価方法、講師プロフィール
2. 観光大国を支える組織—観光行政の組織
3. 観光大国フランスから学ぶこと。観光産業の地位、産業としての国際観光
4. フランスの魅力、日本の魅力、外国人からみた日本の魅力と問題点。クールジャパン
5. 国際観光客到着数ランキング、外客誘致法、ウエルカムプラン21、新ウエルカムプラン、ビジットジャパンキャンペーン
6. フランス人のバカンス実態、バカンスを支える制度、先進国の余暇事情
7. 日本の余暇事情 休暇に対する日本人の考え方 観光大国の条件
8. ヨーロッパの出国率、日本の出国率、低迷するアウトバウンド
9. 国際観光交流と観光産業、MICE、おもてなし、国際会議場、Two-way tourism 21,
10. フランスの観光関連インフラ(宿泊、交通、見本市・国際会議場)、
11. 国際観光交流とはなにか。姉妹都市、音楽祭、映画祭、フェスティバル、スポーツイベント
12. 観光産業とIT革命、マルチメディアとツーリズム

13. 持続可能な開発、環境とツーリズム、
14. フランスの問題点、日本の問題点
15. まとめを行ってから試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

予習・復習として教科書・プリントの指定部分を読む

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。授業中の活動に重点を置いているので、遅刻、欠席は減点の対象になる。

テキスト

観光大国フランス—ゆとりとバカンスの仕組み—(現代図書) 青木幹生著 教室で直接販売する。割引価格2000円

参考図書

「平成24、25、26年度版観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

留意事項

与えられた課題に取り組み結果を教室で発表してもらおう。双方向の爽りある授業を目指したい。

教員連絡先

aokiimikio562@gmail.com

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

観光業は、観光政策を担う行政と観光産業に携わる業界とで構成される。観光事業の全体を理解し、観光政策と産業との関わりを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解する。また、産業としての観光事業を各業界別に理解する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策、観光産業の2本の分野を中心に学ぶ。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割を学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. 旅行事業
10. ホテル・旅館事業
11. 航空輸送事業
12. 鉄道事業
13. 地域観光: 地域と観光
14. 地域観光: 地域と観光
15. まとめ

授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に取り組み発表し、学生によるディスカッションを行う。

準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介する。受講生は事前学習として読むこと。

課題・評価方法

課題50%、統括試験50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
イザベラバード『日本奥地紀行平凡社

留意事項

観光概論を発展した内容である。
*注(重要) 観光領域を学ぶ学生(観光領域ゼミ)は必ず履修すること。
ゼミ選考の要件になる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について理解する。また主な国内及び海外の世界遺産の歴史や保存への課題について理解することを目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題について学び、グループワークを通して理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 世界遺産条約と登録制度
3. 文化遺産の類型と特性
4. 日本の文化遺産①
5. 日本の文化遺産②
6. 日本の文化遺産③
7. 海外の文化遺産①
8. 海外の文化遺産②
9. 海外の文化遺産③
10. 自然遺産の分類と特性
11. 日本の自然遺産
12. 海外の自然遺産
13. 危機遺産・負の遺産
14. トランスパウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
15. まとめと定期試験

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題はレポートの提出(全2回)を求め、講義の中でフィードバックを行う。
評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

学則に従う。

テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

参考図書

『世界文化遺産の思想』西村 幸夫著 東京大学出版会

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。企業が生まれ、成長し、発展していくが、その企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献できる企業とはどこのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献など営利目的以外にも焦点を当て企業を理解し、企業の社会的意義を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業が生き残るためのリスクとは何か。研究対象の企業は、成長分野であるのか、衰退するのか、差別化はできているのかなどをポイントに分析をする。講義の主な業種はホスピタリティ産業から金融、製造業など様々な企業を対象とする。有価証券報告書を参考に同業種や他産業の比較の中で、企業の姿を理解していく。

授業計画

1. ガイダンス
2. 企業研究と発表
3. 企業研究と発表
4. 企業研究と発表
5. 企業研究と発表
6. 企業研究と発表
7. 企業研究と発表
8. 企業研究と発表
9. 前半のまとめ
企業研究と発表
10. 企業研究と発表
11. 企業研究と発表
12. 企業研究と発表
13. 企業研究と発表
14. 企業研究と発表
15. 後半のまとめ
企業研究と発表

授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。発表はパワーポイントを使い行う。

準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。
授業で注目した企業を紹介する。

課題・評価方法

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。
評価基準は平常点50%、発表50%

欠席について

規定通り

テキスト

日経業界地図（日経出版社）

参考図書

会社四季報

留意事項

適宜アドバイスする。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正／酒井 新一郎	選択	2	ホテル勤務／旅行会社勤務			

授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
3. グループワーク課題を実践する。
4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。総合旅程管理主任者資格（ツアーコンダクター）の取得を目指す。

このクラスではKAISEI パーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

授業の概要

春休みの1週間を利用して観光先進国を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。あわせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。

授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 実地研修1日目：関空出発～目的地
7. 実地研修2日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
8. 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 実地研修4日目：研修地の移動
10. 実地研修5日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
11. 実地研修6日目：日系企業訪問
12. 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
13. 現地でのグループワークの事後発表の準備

14. 現地でのグループワークの事後発表
15. 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

課題・評価方法

事前研修、海外研修の総合評価。

欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。

テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

参考図書

事前研修時に適宜指示する。

留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員の規定が適用される。（本学支援金支給対象科目）

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (国内)			13969	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・航空関連・ウェディング会社他）に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。また、社会人としてのビジネスマナーや企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）からなる。事前研修では企業コンプライアンスや社会人としてのビジネスマナーなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～1ヶ月となる。

授業計画

1. オリエンテーション
2. インターンシップとは
3. 企業コンプライアンスについて
4. インターンシップ受け入れ企業について
5. グループワーク①
6. グループワーク②
7. 受け入れ企業とのマッチングについて
8. ビジネスマナー研修①
9. ビジネスマナー研修②
10. 就業体験前最終ガイダンス
11. 就業体験①
12. 就業体験②
13. 就業体験③
14. 就業体験④
15. 就業体験⑤

授業の方法

講義及びグループワークと就業体験を中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題は就業体験レポートと日報の提出を求める。
評価は平常点50%、企業実習50%
就業体験は5回で30時間とする。

欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。
就業体験欠席者は単位認定されない。

テキスト

なし。随時プリントを配布する。

留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。また学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。尚、一部の受入先で選考がなされる場合がある。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。製造業の組織管理とホスピタリティ産業の組織管理の違いを学ぶ。ホスピタリティ産業は、形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティ産業の組織は、どのように管理されるべきか、どのように運営すべきかを学ぶ。ホスピタリティ産業のマネジメント&マーケティングを理解することで、経営能力を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場における外部環境を理解しながら競争力について理解する。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業（ホテル・旅館・テーマパーク等）から学ぶ。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティの歴史と文化
3. ホスピタリティ・サービスの語源
4. ホスピタリティ産業の製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. マーケティング戦略・インテグラルマーケティング
7. マーケティング戦略・労働生産性
8. 「加賀屋」のマネジメントを学ぶ(プロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略を学ぶ)
9. 再生事業「星野リゾート」の戦略
10. 世界に名声を残すホテルマネジメント手法(マリオット・ザ・リッツカールトンホテル)
11. 旅行業とマネジメント(ニッコートラベルを事例に)
12. ホスピタリティ産業における企業戦略
13. ホスピタリティ産業における企業戦略
14. ホスピタリティ産業における企業戦略

15. まとめと総括試験

授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

課題・評価方法

授業での積極的参加評価10%
総括試験90%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

特に予定していない。

参考図書

服部勝人『ホスピタリティマネジメント入門』丸善
Jay B. Barney (岡田正大訳) 『企業戦略論』ダイヤモンド社
P.F.Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』
Kotler (平井祥訳) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を覗る事で講義の内容が活かされる。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。ホスピタリティ産業では形のない製品やサービスを提供している。それだけに顧客の反応は厳しい。ホスピタリティの原点を理解し、どのように実践すればホスピタリティ精神が、顧客の購買意欲に結びつくのかを理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

ホスピタリティとサービスの違いを語源に遡り学ぶ。ホスピタリティマネジメントとはホスピタリティ産業の経営、運営について学ぶことである。評価される企業を事例に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのか、企業のコア・コンピタンスを探る。事例として、宿泊産業（ホテル・旅館）やテーマパークの成功の秘密を紐解く。それ以外にも注目すべき企業体の事例を取り上げる。講義はコトラー「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」の内容を中心に構成される。

授業計画

- 1.ホスピタリティマネジメント概要
- 2.マーケティングとは
- 3.ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
- 4.戦略計画におけるマーケティングの役割
- 5.マーケティング環境
- 6.マーケティング情報システム
- 7.消費者の心理と購買行動
- 8.競争市場の原理
- 9.市場細分化における戦略
- 10.マーケティングミックス(製品)
- 11.マーケティングミックス(価格)
- 12.マーケティングミックス(流通)
- 13.マーケティングミックス(プロモーション)
- 14.ディズニールランドのマネジメント
- 15.まとめ

授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

課題・評価方法

課題30%統括試験70%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

なし。資料配布する。

参考図書

Kotler『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社
Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

基礎科目（観光概論、観光事業論）の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
有村 理	選択	2	航空会社勤務			

授業の到達目標

空の規制緩和がオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化し、近年昼間の長距離路線も拡大し一層便利になっている。また2012年から連航を開始した国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。この授業ではグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、航空業界の全体の動きと今後のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」から世界の航空業界の動きをアメリカ、ヨーロッパ、アジアと日本でそれぞれ考察する。その上で世界のグローバルアライアンスとLCC、国際ハブ空港の動向を含めた航空業界の現状を把握する。2020年の訪日観光客4000万人達成の目標に向け日本が観光立国を目指す中で航空ツーリズムを考える。

授業計画

- 1.ガイダンス
- 2.航空事業の特性
- 3.アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
- 4.ヨーロッパの規制緩和とE.U
- 5.アジアの規制緩和とASEAN
- 6.日本の規制緩和と新規航空会社
- 7.アメリカのLCC
- 8.欧州とアジアのLCC
- 9.日本のLCC
- 10.アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
- 11.世界の国際ハブ空港の競争
- 12.グローバルアライアンス
13. JALとANA
- 14.航空機の進化とツーリズム
- 15.航空業界の地球環境対策・まとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

グループでのディスカッションでは教員によるフィードバックを行う。

評価は平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は1回につき5点減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントを配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』（株）ANA総合研究所
『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版
『最新航空事業論 第2版』井上泰日子 日本評論社

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	ホテル勤務			

授業の到達目標

観光は、新国家戦略として位置づけられ、観光立国を目指す。この観光立国の中心となる産業が、宿泊産業である。宿泊業は民泊、ゲストハウス、旅館、ホテル等多くのカテゴリーからなる。その上で、宿の誕生から、現代のホテル産業までを歴史と経営の観点から学ぶ。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊業のマネジメントを学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。グローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を学ぶ。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

1. ガイドンス
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊産業の市場特性
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. パンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

レポート及び総括試験を総合して評価する。

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

1. 神戸海岸通りと旧居留地
2. 神戸の海岸線
3. 雑居地文化と異人館通り
4. 神戸モダニズム
5. 他地域からの視点
6. ミステリー発祥の地としての神戸
7. 川崎造船所と神戸の町
8. 鈴木商店を支えた女性
9. プレゼンテーション発表
10. プレゼンテーション発表
11. プレゼンテーション発表
12. プレゼンテーション発表
13. 映画に登場する神戸の風景
14. 神戸モダニズムの転換期
15. 神戸と坂の物語

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返

却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。